

第39回カラーコーディネーター検定試験1級第1分野

級		合計	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10
第1分野	配点	100	10	10	5	10	10	5	10	5	10	25
	平均点	60.4	7.4	7.5	2.7	7.9	7.4	3.4	6.0	3.8	5.1	9.2

設問	設問	解答
1-1	ア	3
	イ	2
	ウ	4
	エ	3
	オ	2
1-2	ア	2
	イ	4
	ウ	1
	エ	1
2-1	ア	3
	イ	1
	ウ	4
	エ	4
	オ	3
2-2	ア	2
	イ	3
	ウ	4
	エ	2
3	ア	4
	イ	2
	ウ	4
	エ	2
	オ	4
4-1	ア	2
	イ	1
	ウ	3
	エ	2
	オ	2
4-2	ア	3
	イ	3
	ウ	1
	エ	1
	オ	3

設問	設問	解答
5-1	ア	2
	イ	3
	ウ	4
	エ	2
	オ	4
5-2	ア	2
	イ	1
	ウ	1
	エ	3
6	ア	3
	イ	2
	ウ	1
	エ	1
	オ	3
7-1	ア	3
	イ	2
	ウ	3
	エ	4
7-2	ア	1
	イ	4
	ウ	4
	エ	4
	オ	3
8	ア	3
	イ	3
	ウ	4
	エ	4
	オ	2

第39回カラーコーディネーター検定試験1級第2分野

級		合計	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10
第2分野	配点	100	10	10	5	10	10	5	10	5	10	25
	平均点	61.5	7.3	7.1	2.8	6.9	7.0	2.7	6.4	3.8	6.1	11.5

設問	設問	解答
1-1	ア	2
	イ	11
	ウ	8
	エ	5
	オ	4
1-2	ア	4
	イ	9
	ウ	5
	エ	12
	オ	10
2-1	ア	1
	イ	4
	ウ	3
	エ	4
	オ	2
2-2	ア	3
	イ	3
	ウ	4
	エ	4
	オ	3
3	ア	4
	イ	10
	ウ	14
	エ	6
	オ	15
4-1	ア	3
	イ	1
	ウ	2
	エ	4
	オ	3
4-2	ア	6
	イ	11
	ウ	13
	エ	3
	オ	9

設問	設問	解答
5-1	ア	10
	イ	9
	ウ	4
	エ	3
	オ	11
5-2	ア	4
	イ	10
	ウ	13
	エ	7
	オ	3
6	ア	4
	イ	11
	ウ	3
	エ	5
	オ	2
7-1	※ア	1
	※イ	4
	※ウ	6
	※エ	10
	※オ	13
7-2	ア	15
	イ	5
	ウ	6
	エ	12
	オ	14
8	ア	3
	イ	3
	ウ	4
	エ	4
	オ	2

※7-1は順不同です。

第39回カラーコーディネーター検定試験1級第3分野

級		合計	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10
第3分野	配点	100	10	10	5	10	10	5	10	5	10	25
	平均点	56.8	6.5	5.0	2.6	6.2	7.2	3.1	6.8	3.6	4.8	11.1

設問	設問	解答
1-1	ア	3
	イ	1
	ウ	3
	エ	4
	オ	1
1-2	ア	7
	イ	4
	ウ	15
	エ	1
	オ	6
2-1	ア	15
	イ	13
	ウ	3
	エ	2
	オ	9
2-2	※ア	1
	※イ	4
	※ウ	6
	※エ	7
	※オ	11
3	ア	1
	イ	2
	ウ	3
	エ	1
	オ	2
4-1	ア	13
	イ	8
	ウ	1
	エ	11
	オ	3
4-2	ア	3
	イ	11
	ウ	8
	エ	13
	オ	1

設問	設問	解答
5-1	ア	8
	イ	13
	ウ	3
	エ	11
	オ	1
5-2	ア	11
	イ	10
	ウ	6
	エ	7
	オ	1
6	ア	2
	イ	4
	ウ	3
	エ	2
	オ	3
7-1	ア	4
	イ	1
	ウ	4
	エ	3
	オ	2
7-2	ア	2
	イ	1
	ウ	3
	エ	3
	オ	3
8	ア	3
	イ	3
	ウ	4
	エ	4
	オ	2

※2-2は順不同です。

第39回カラーコーディネーター検定試験 1級

【第9問】 1級（第1分野～第3分野）共通論述問題 採点基準

【問題】

色材はその着色方法の特性によって2種類に分けられる。その2種類を挙げ、それぞれの特性と着色方法の違いを説明しなさい。さらに、その二つがどの様に工業的に使われているかを説明しなさい。

【模範解答例】

色材には染料と顔料がある。染料は水には溶けるが、顔料は水や油には溶けない。染料は主に糸や布に、紙などに着色するのに用いられる粉末状の着色剤で、水に溶解し、布などの繊維と分子レベル結合する。顔料は水や油に溶けないので、着色するには油や合成樹脂などの展色剤に均一に分散させて着色に用いる。染料は糸や布、紙の着色に用いられるが、インキとしても使用される。顔料は絵の具、ペンキ、印刷インキなどに使用される。

【採点のポイント】

- 1) 染料と顔料が記述されていること。
- 2) 染料が水や油には溶けるとの記述があること。
- 3) 顔料が水や油には溶けないとの記述があること。
- 4) 染料が布などの繊維と分子レベルで結合との記述があること。
- 5) 顔料は着色するには油や合成樹脂などの展色剤に均一に分散させて着色に用いるとの記述があること。
- 6) 染料は布、紙、皮革の着色、熱昇華型転写の色材、インキジェットプリンタのインキ、銀塩写真用色素、プラスチックの着色、食品・飲料の着色、化粧品の用途の記述があること。
- 7) 顔料は塗料、印刷インキ、カラーコピーのトナー、インキジェットプリンタのインキ、プラスチック・ゴムの着色、絵の具、クレヨン、色鉛筆、化粧品、顔料擦染、陶磁器・ガラスの着色の用途の記述があること。
- 8) 顔料と染料の記述がなく、用途だけの記述があっても採点する。

第39回カラーコーディネーター検定試験 1級

【第10問】1級（第1分野）論述問題 採点基準

【模範解答例】

服飾文化史においては、黒は中世ヨーロッパにおいて染色技術の難しさから上等布にはならず、修道服に使われる清貧と謙譲を表す色であった。しかし14世紀から15世紀に贅沢禁止令が発令されたイタリアやフランスの宮廷で広まった結果、染色技術が改良され、深みやつやを表現する洗練の色となった。さらに16世紀にはプロテスタントが道徳的な理由として黒を推奨したことから、倫理的な色として市民に広がっていった。

近代服飾史の観点では、19世紀前半の英国やフランスの上流階級でダンディズムが流行し、黒い燕尾服が男性の礼装として定着する。また20世紀に入り1920年代にシャネルがそれまで喪服の色でしかなかった黒を昼夜問わず女性服に採用し、リトルブラックドレスに代表される新しいエレガンスと実用性をもたらした。さらに1980年代前半、川久保玲と山本耀司がパリコレクションで装飾を取り去った黒い服「ぼろルック」を発表し、西欧の理想美の範疇に入らないスタイルで強い衝撃を与えた。その影響は日本にも及び、DCブランドの台頭や全身黒づくめのカラス族と呼ばれるスタイルの登場に至る。やがて黒は20世紀後期のファッションの基本といえるほどに拡大した。

（本文のみで495字）

【評価のポイント】

論文全配点 25点

服飾に関する色彩文化史の中で、「ファッションの黒」はいつの時代にも過去を否定して、破壊して、新しいファッションを作りあげてきた原動力であった。この問題はテキストの教養編「第3章ファッションと色彩文化」（P47～）を中心に、その文中から出題されており、テキストを読みこなし、中世から現代に至る服飾史、ファッション史の流れを良く理解し、把握しておれば容易に解答できる問題である。

（1）色彩文化史における黒服の記述と理解度

小計6点

- ① 14世紀ごろ黒い布は上等布にはなりえず、ベネディクト修道会が採用したことから、キリスト教における清貧と謙譲の色となった。
- ② 16世紀にはプロテスタントによってさらに黒・灰色・茶・白などを道徳的な色とみなした。17世紀、市民社会の発展とともに市民服の色としても浸透する。
- ③ 19世紀の産業革命によってイギリスの暗い色調の市民服がフランス宮廷にも波及。両国の上層階級で黒い燕尾服が礼装になり、またダンディズムの象徴となった。

（P44左1行～右19行）

上記①～③について、同様の記述があれば、各2点を目安に加点する。

(2) 近代服飾史におけるシャネルの黒についての記述と理解度 小計 8 点

- ① 第一次世界大戦中の女性の社会的進出による機能的なファッションの登場。
- ② 当時、喪服の色でしかなかった黒を昼夜問わず採用。
- ③ 色の多用より、全てを包括する黒が女性を美しく見せる。
- ④ 黒のリトルブラックドレスは斬新なエレガンスと実用性をそなえていた。

(P 45 右下 7 行目～46 左 16 行目)

上記①～④について、同様の記述があれば、各 2 点を目安に加点する。

(3) 現代ファッションにおける川久保玲及び山本耀司の黒のファッションについての記述と理解度 小計 8 点

- ① 世界においては、82 年にパリコレで発表した装飾を取り去った黒で西欧に衝撃を与える。東洋の黒、寡黙な黒。
- ② 20 世紀後半のファッションの基本といえるほどに広がり、黒には現代のエレガンスや知性といった価値が与えられた。
- ③ 日本においては DC ブランドの進出とともにカラス族といわれる黒づくめのファッションの台頭。
- ④ 無彩色によるモノトーン配色が拡大し、ファッションのみならず、インテリアや家電製品等の工業製品にも影響を与える。

(P 49 右下 5 行目～50 右 3 行目、 P 170 右 10 行～171 左)

上記①～④について、同様の記述があれば、各 2 点を目安に加点する。

(4) 全体のまとめ 小計 3 点～

- ① 「ファッションの黒」は、単なる流行色ではなく、常に新しい時代の先駆けとなる色である。
- ② 「ファッションの黒」は、過去のを否定し、破壊して、その上に新しい価値観を生み出す原動力である。

上記「全体のまとめ」については、論旨の一貫性、文意の統一感などを勘案し、総合的に評価するが、①～②の例示のように、テキストには記載がないが、自分なりの総括的な結論が書けていれば加点の対象とする。

(5) その他

- ① 黒についての記述が、模範解答の範疇以外の回答であっても（例えば冠位十二階の黒に関する記述など）、それが正しい回答であれば、その度合いに応じて加点する。
- ② 回答に当たって、その内容が模範解答に準じた優れたものであっても、文字数が指定の 500 字に達しないものは、その割合に応じ、5 点を限度として減点する。

第39回カラーコーディネーター検定試験 1級

【第10問】 1級（第2分野）論述問題 採点基準

【問題】

カラーコーディネーターの役割の一つに、「色彩分析に基づく問題点の指摘」とあるが、具体的な商品事例で架空の問題点を想定し、どのような手順でどのようなことを指摘するのかその手順と解決策の提案までを論じなさい。

【採点基準】

論文の流れ：①市場における商品の色彩分析→②架空の問題点の指摘→③解決策の提案

ポイント：単に分析方法の羅列ではなく、分析の手順が明記されていること。また、上記①から③までの内容に無理が生じていないこと。

出処はテキスト第1章「経営と色彩」の第5節「経営におけるカラーコーディネーターの役割」（12頁）からなので、この第1章の流れで纏めるのが適切な回答となる。

- ・既存商品の調査・分析を通して11頁の色彩戦略（4つの戦略）を再確認し、問題点の指摘から次の手を提案がし易いだろう。
- ・特に12頁の説得の所はキーワードに成り得る。
- ・また、販売実績データから同じく11頁の採算や色数の絞り込みをテーマにするのも良い切り口となる。
- ・更に12頁のカラーシステムの完成までの事前事後の調査研究や異業種との情報収集協力などからアプローチしても良い。

第39回カラーコーディネーター検定試験 1級

【第10問】 1級（第3分野）論述問題 採点基準

【問題】

道路は誰もが関わる重要な環境装置です。さまざまな「道路塗装」について具体例をあげ、問題点とその解決策を述べなさい。(500文字)

問題に含まれるキーワード

道路：高速道路／一般道路／生活道路、道路本体、道路付属物、道路占有物、

具体例：街路／通学路／歩道・車道／自転車専用道／モール／ガードレール／路面標識 etc

問題点：適合色か否か（安全性と景観性）、デザイン（色彩・面積・バランス・場所性）、

対症療法的、エイジング（塗装と素材）への認識不足、メンテナンス性、情報過剰

解決法：総合的階層性-秩序、シーケンス（連続性）、

景観行政への参加・共有化（パブリック・インボルブメント）、構造的対応

【模範解答例】

生活道路はさまざまな生活シーンを連続して垣間みれる景観である。この視点は自ずと道の多様な文脈、個と公が混在するシーケンスデザインの必要性を再認識させる。道路塗装は比較的簡便な方法として通学路や歩道・車道、そして最近では自転車専用レーン等に安全性確保の名目で安易に施色される事が多い。概ねその問題点は、色彩が有力な情報であるという理由に起因し、結果、情報過多な景観をイージーに濫造する事を招いているように思う。道路塗装は、安全性を確保しつつ、生活性、公共性、地域性などの景観形成要因から考えれば、塗装という方法が最適なのかという基本的な課題を踏襲しつつ、道路色彩として相応しいか否か、面積は適切か否かなどが慎重に検討されなければならない。また、前述したように道路はシーケンス景観であり、安全性は既存の交通標識等との階層性に配慮する明確な秩序形成への対応が求められないかぎり語れない。さらに環境や景観には時間経緯によるエイジングという視点も包含されており、素材や構造を含めてデザインする必要性と、行政と生活者が問題点や対策を共有するパブリック・インボルブメントの視点も解決法として再考すべきである。(500文字)